

発見!

# 熊野町の「エエ」ところ。

シリーズ  
第14回

全国各地にある名所や名物、もちろん熊野町にもたくさんあります。そんな町内に埋もれた、さまざまなモノ・場所などの「エエところ」を紹介するコーナーです。  
今回は「熊野第二小学校の校歌」にまつわるレポートです。

## 「校歌誕生の知られざるエピソード…」～vol.4 熊野第二小学校校歌～

初神山を背にして、前方に竜王山の山々見渡せる高台に建つ校舎はまるで「白亜の殿堂」。今回は、明治28年に創立され、第一小学校に次いで10年余りの長い歴史と伝統をもつ熊野第二小学校の校歌を再発見！



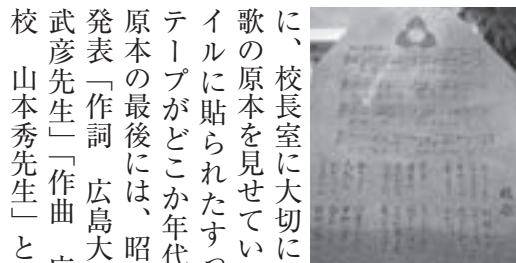
白亜の殿堂

校区は初神地区、新宮地区からなり、平成20年4月1日現在、児童数14名の小学校である。  
今日は入学式。新一年生、在校生と一緒に校歌を歌うことができた。

みどりこき〜♪ 初神山の〜♪  
ふもとなる〜♪ 学びの庭に〜♪  
あめーつちーの♪ ひかりあふれて〜♪  
幸多き〜♪ われらのつどい〜♪

「あめつち」とは、「天地」であろうか。三行目のフレーズがなんとも心地よい。

竜王山を望む校庭には、音符と共に校歌が刻まれた大きな石碑がある。昭和53年から57年にかけての現在の校舎完成記念に建立されたそうだ。



本年度より安芸高田市より赴任された新学校長岡本正(54才)先生

に、校長室に大切に保管してある校歌の原本を見せていただいた。ファイルに貼られたすっきり色あせたテープがどこか年代を感じさせる。原本の最後には、昭和32年2月3日発表「作詞 広島大学福山分校 浦武彦先生」「作曲 広島大学東雲分校 山本秀先生」と記してある。



原本

作詞をご担当の浦武彦さんも作曲をご担当の山本秀さんも、広島大学の先生のようにある。校歌が制定された当時、第二小学校で教鞭をとられていた現町議会議員藤河祥司さん(76才)にお話を伺った。驚くことに「そうそう、校章はわたしがデザインしたのですよ。」と続けられた。聞けば、作詞をされた浦武彦さんは、当時PTA会長で校医でもあったという松野PTA会長の遠縁にあたる方だそう。

おや？第二小学校の創立は明治28年であるが、これによれば校歌制定は、昭和32年2月である。単純に計算しても60年余りの間、校歌がなかったことになる。校歌制定のきっかけはなんであったのだろうか？疑問がわいてくる。手がかりを探すため、第二小学校の「創立百周年記念誌」をお借りした。

あつたり！その中に：第二小学校の子ども達が熊野中学校に入学していった時(当時、熊野中学校は第一小学校と第二小学校を卒業した子ども達も通っていた)、一緒に遊んでいた子ども達も、校歌の話しに及んだのである。帰ってくるなり、どうしてわたし達の学校には、校歌がないの？と寂しそうに言ったそう。どうしようもないエピソードがある。一端には、これをきっかけに、校歌制定へ拍車がかかったものであるかと考えることができるかもしれない。

校歌誕生のきっかけを目にするまで、校歌は、学校があればあたりまえのように当然に存在するものと思っていた自分が、なんだか恥ずかしく感じられました。大好きな母校を思う子どもの気持ちは、先生方や地域のみなさんを校歌制定の熱意へと導くほど、校歌とは尊いものと心温まるエピソードですね。

取材 伊藤真由美